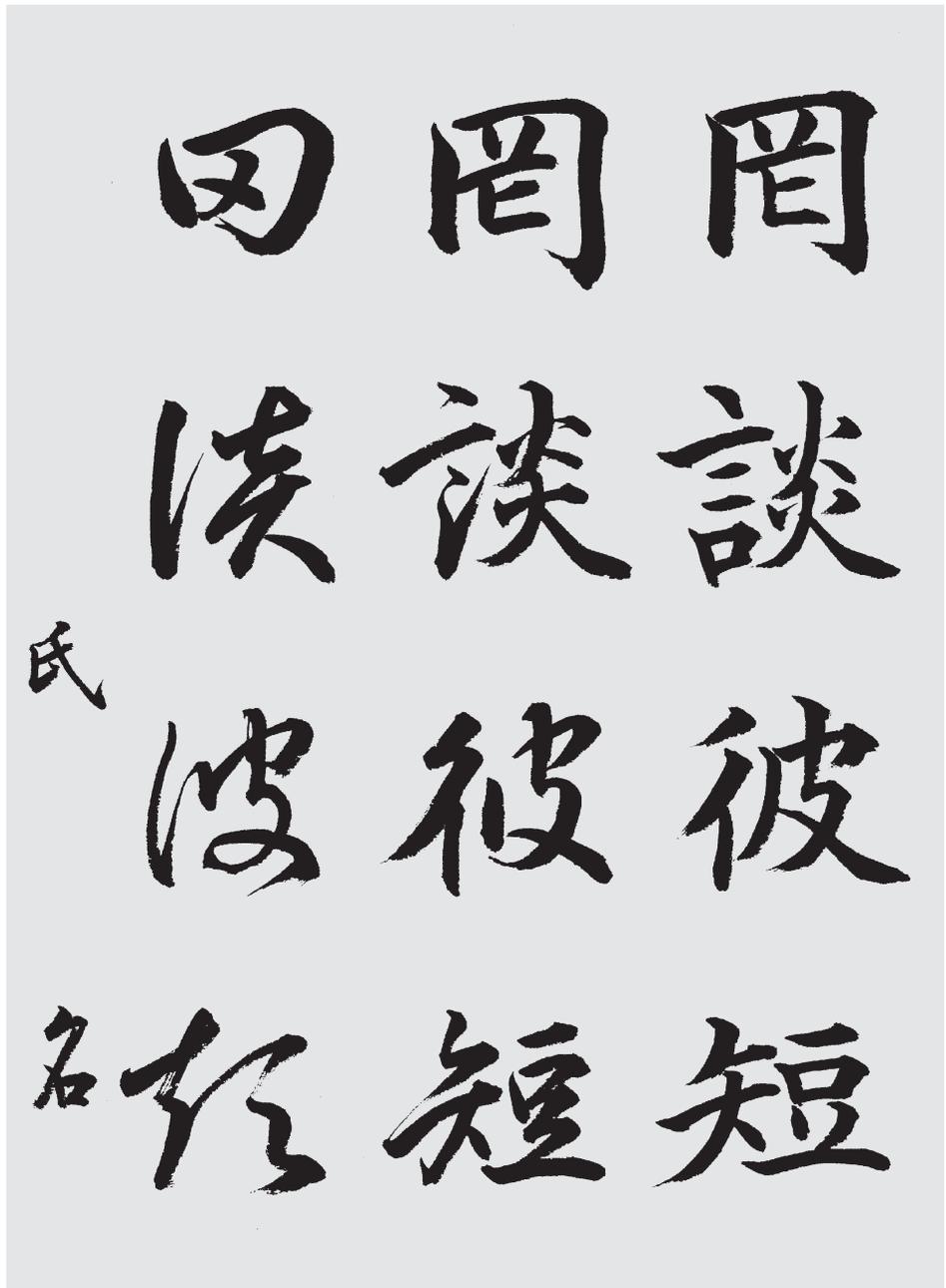


三体千字文を書く (45)

締切り 九月二十四日 (必着)



奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判 (二五七mm×一八二mm) 以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 B半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六

(一九八二)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、憲照先生の穩健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間と平成二十八年の一年間学びましたが、今回はその続きです。原点に戻って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

罔談彼短

靡恃己長

人の短所過失は言うことなく、
自れの長所、得意とするところは人に
自慢することなく、

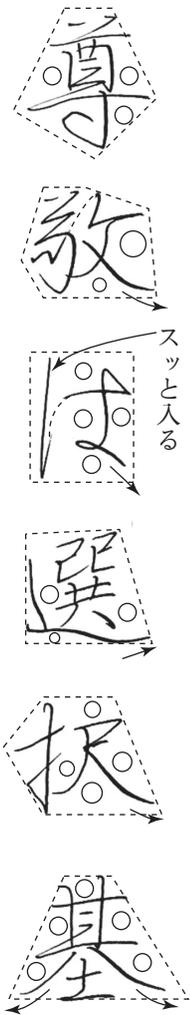
準初段から六段まで

新入から1級まで

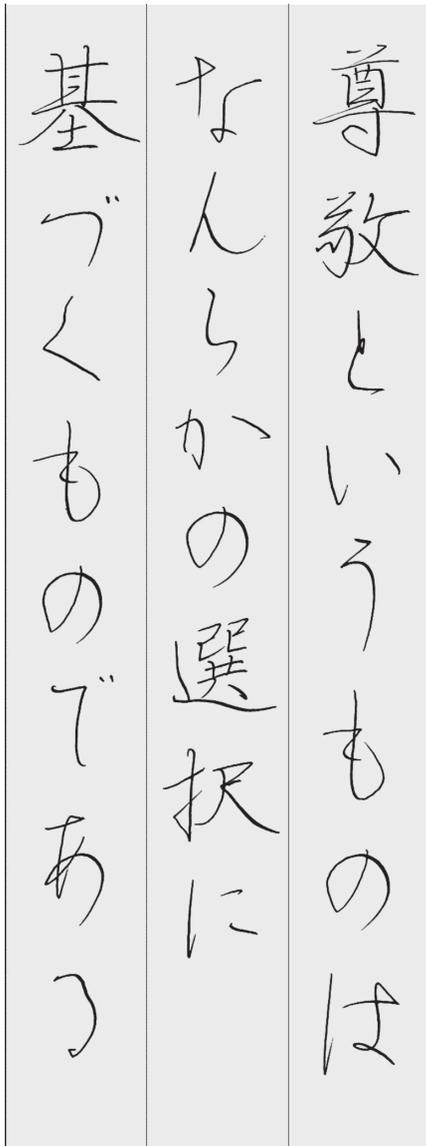
〔解説〕

〔解説〕

〔読み〕尊敬というものは なんらかの選択に 基づくものである



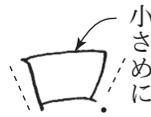
▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。



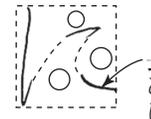
新井龍峰書

▷用具=自由(黒色に限る)

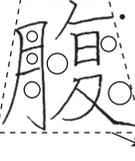
▷用紙=本会段位用紙



小さめに



長めに



	腹	口
	に	に
	劍	蜜
新	あ	あ
唐	り	り
書		

古田瑞苑書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆10月課題予告(楷書)
人は賞賛したり
けなす事ができるが
永久に理解しない
▼教範・書範||行草または草書
▼師範||行書

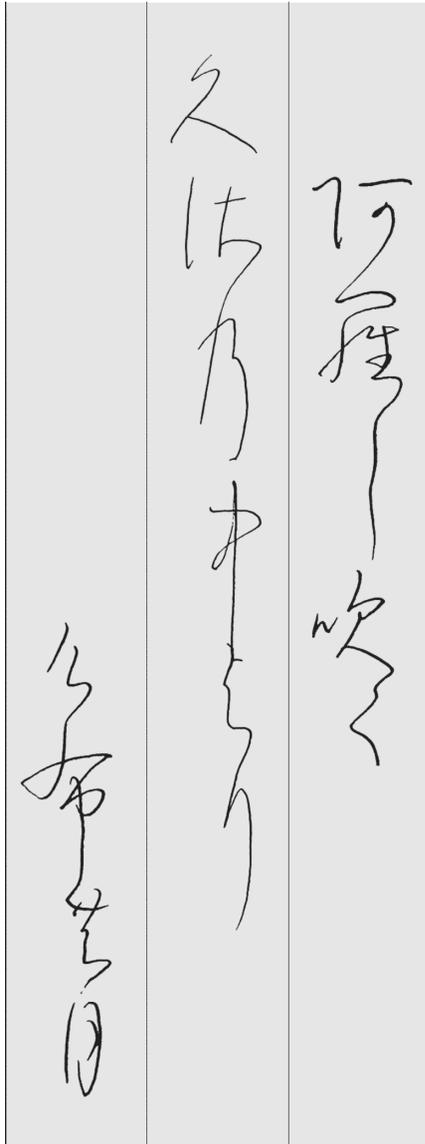
★尊敬という…(書体||行書)
モリエール(一六二一〜一六七三)
劇作家。戯曲「人間嫌い」より。
無差別の尊敬には本当の尊敬の情がない。心の底からの尊敬は、様々な対象への敬意の中でも特に選び抜かれたものでなければ価値がない、と言っています。
真の敬意、尊敬とはやたら相手を敬い、それを抵抗もなく受けとる事ではなく、両者の敬意、尊敬に対する選択が必要なのです。
尊敬は感情の中でも極めておもしろいものである事をも認識したいものです。

◆10月課題予告(行書)
心を磨くと
優しさが
キシキシと鳴る

★口に蜜あり…(書体||楷書)
宋代の歐陽脩・宋祁が編集した
唐代の正史、新唐書の中に出てくる言葉。
唐の玄宗皇帝の側近に宰相の李林甫という男がいました。性格は「十八史略」に「性陰険なり」と評された様に良くありませんでした。心にもないおだてを言い、その後バツサリ失脚させる。そのくせ皇帝には盲従ぶりを示した、いわゆるゴマスリ人物だったので。
日常生活の対人関係において、口に蜜をもつ時には、心の中にも蜜をもちたいものです。

準初段から六段まで

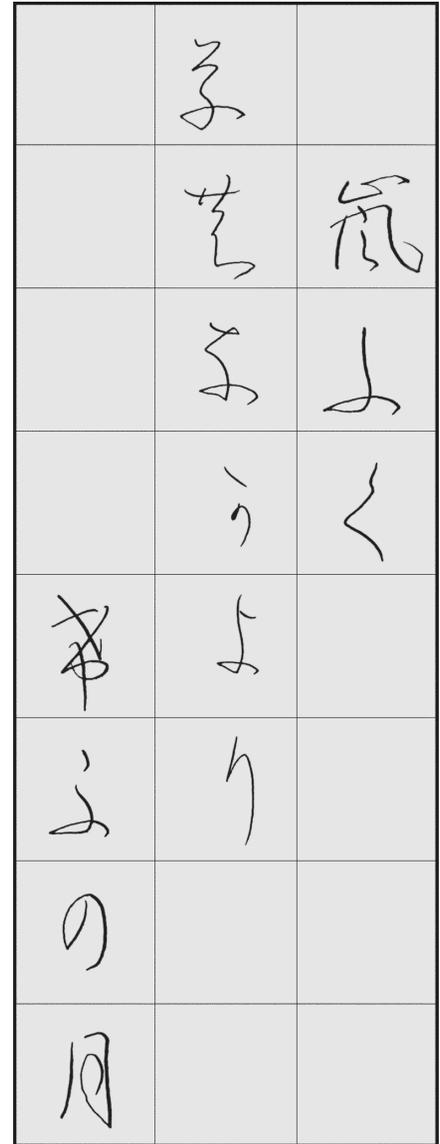
新入から1級まで



阿羅乃
久佐乃
中より
與介
布農
嵐吹く草の中より今日の月

農奈可
希ふ
嵐吹く草の中より今日の月

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆10月課題予告

ありあけ
有明や浅間の霧が膳をはふ

(小林一茶)

【解説】 段位課題の一行目は右へ移行するのではなく、「し」と「く」は右側に書き、「吹」は中心に書いて下さい。

羅乃 羅乃 羅乃
佐乃 佐乃 佐乃
農の 農の 農の
希希 希希 希希
布布 布布 布布

【古筆参考】

かりやすく表現している。

どがしほみ落ちる秋のわびしさを、分

【鑑賞】 名月の句といえは既成の情趣にはまった作が多い中で、本句は清新である。台風に荒れ騒ぐ草原という今まで詠まれたことのなかった月の出をとらえ、激しい自然の動きの中に花

悠然と大きな姿を現してきた。

嵐吹く草の中より今日の月
(三浦樗良)

締切り 9月24日(必着)

暦の上では秋分も過ぎ、心なしか
日の入りも早まって来たように
感じられます。ペン字展ですが、
ご都合よろしければ、最終日の
十時頃、お迎えに参りたいと存じ
ますので、よろしくお願います。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題はがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

暦の上では秋分も過ぎ、心なしか
日の入りも早まって来たように
感じられます、ペン字展ですが、
ご都合よろしければ、最終日の
十時頃、お迎えに参りたいと存じ
ますので、よろしくお願います。

横 書 き 課 題

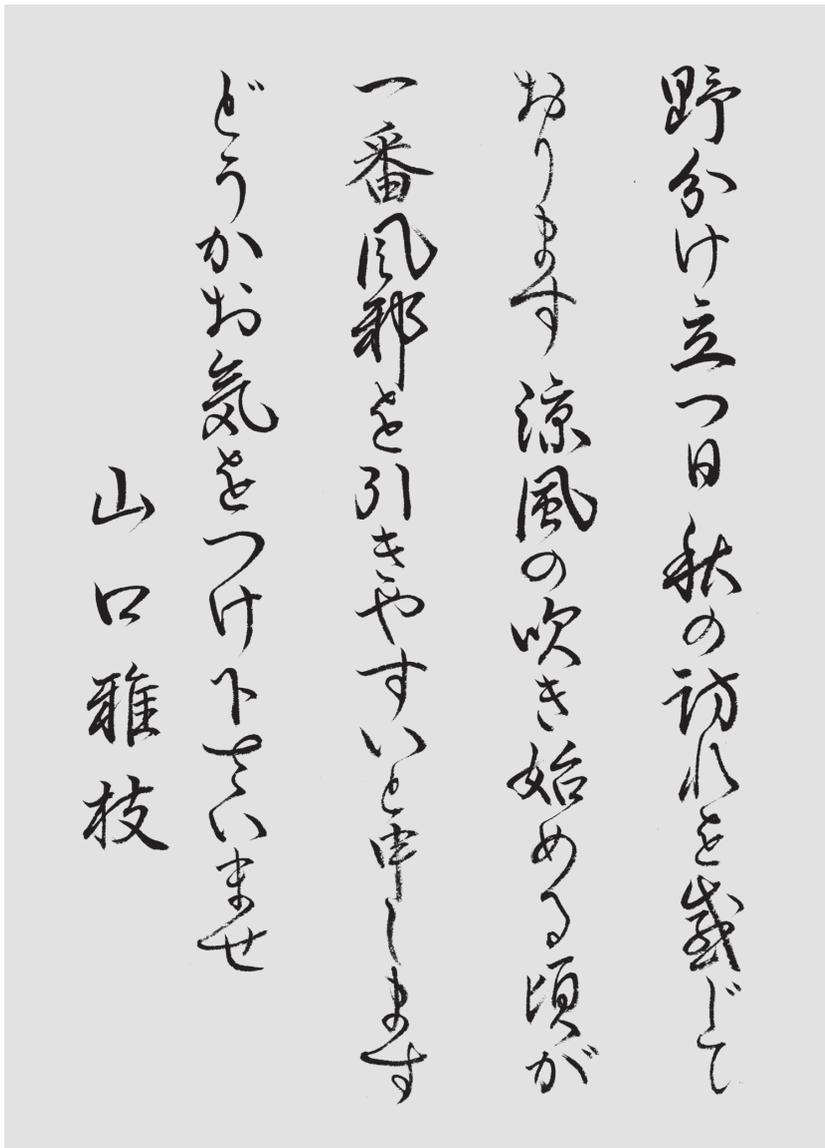
お 郷 すい こう 書
尾 郷 翠 光 書

原子力発電は、石炭の将来に不安
のあるイギリスが最初に着手した。
福島県伊達市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

伊藤梅香書



締切り 九月二十四日(必着) 半切 (一三六cm × 三五cm)

荻田蒼仙先生書

東湖仲夏草樹荒

屋古無人亭午涼

〔大意〕真夏の東湖に草樹が掩い、古びた庵には人気も少なく日中でも涼し。
初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕

平常心で書けることも修行の一つ。アガルと萎縮し、気持ち勝ち過ぎるとオーバーな表現になり、これ又ダメ。私はその辺も苦勞の種。ホンの少しアガル方が、よい演技が出来ると申された名優さん、成る程。何事も人に訴えるには緊張感をもつ事、これも大事。

野分け立つ日 秋の訪れを感じて
おります 涼風の吹き始める頃が
一番風邪を引きやすいと申します
どうかお気をつけ下さいませ
(ご自分の氏名)
・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(楷書)



清水翠芳書

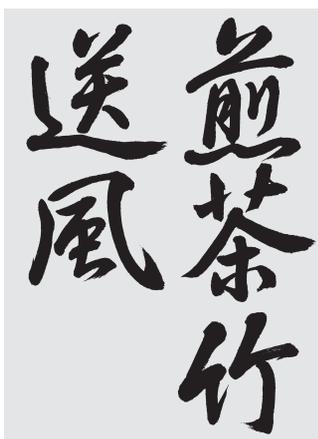
開秋肇涼風

〔大意〕世は初秋となり、涼しい風が吹きそめた。

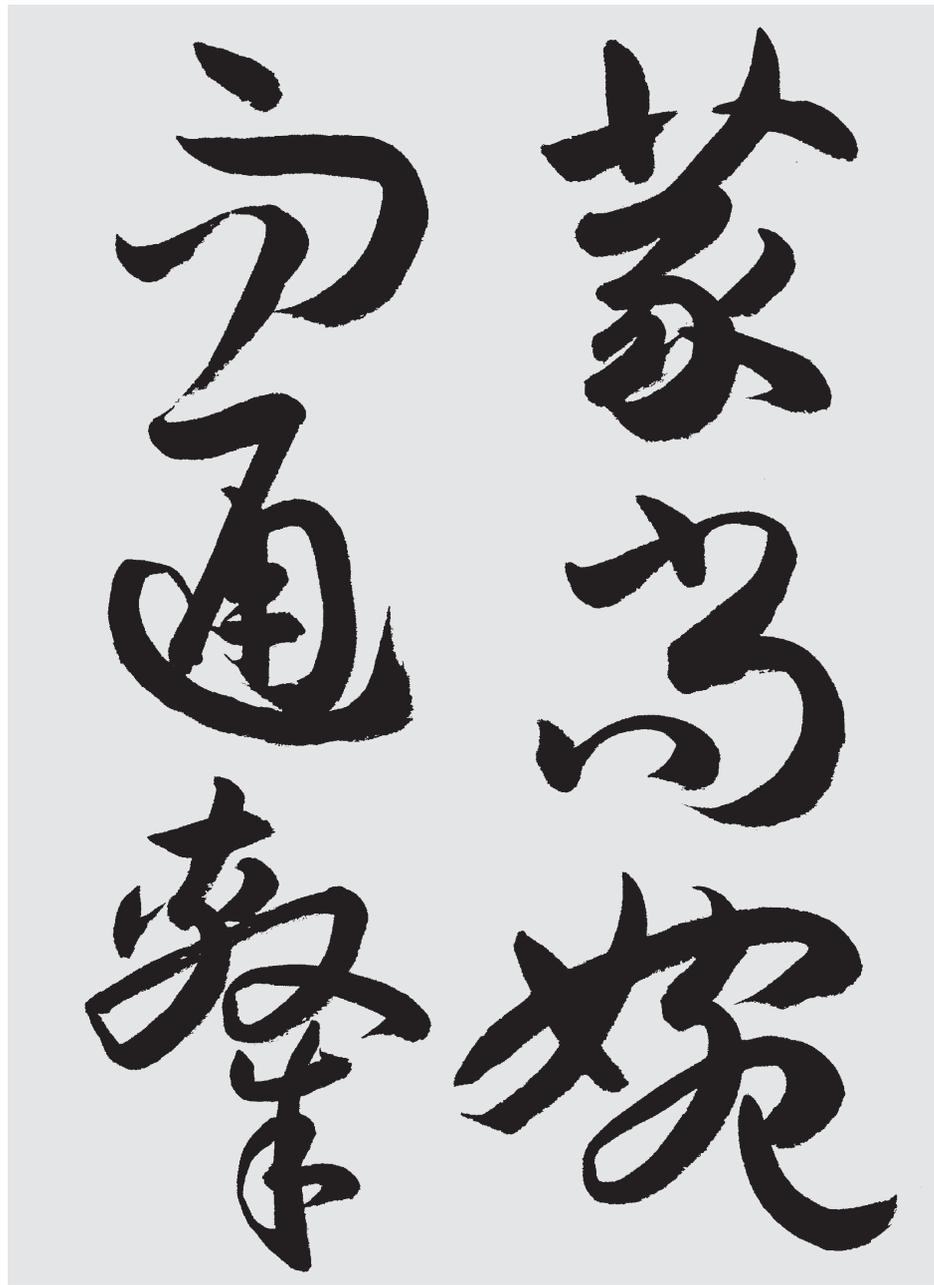
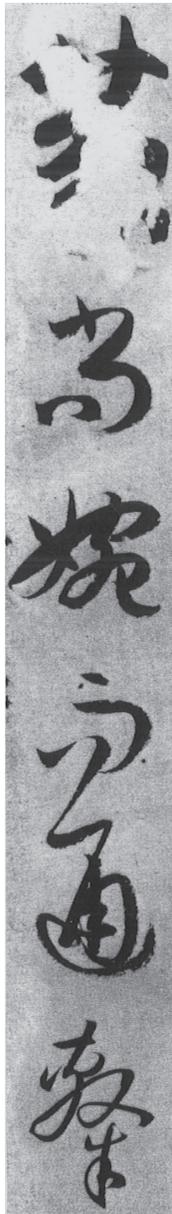
〔解説〕



◆10月課題予告(行書)



篆
尚
婉
而
通
隸



準初段から師範まで

須田 一葉 臨



◆10月課題予告

※文献によって字体が異なる場合があります。



〔解説〕

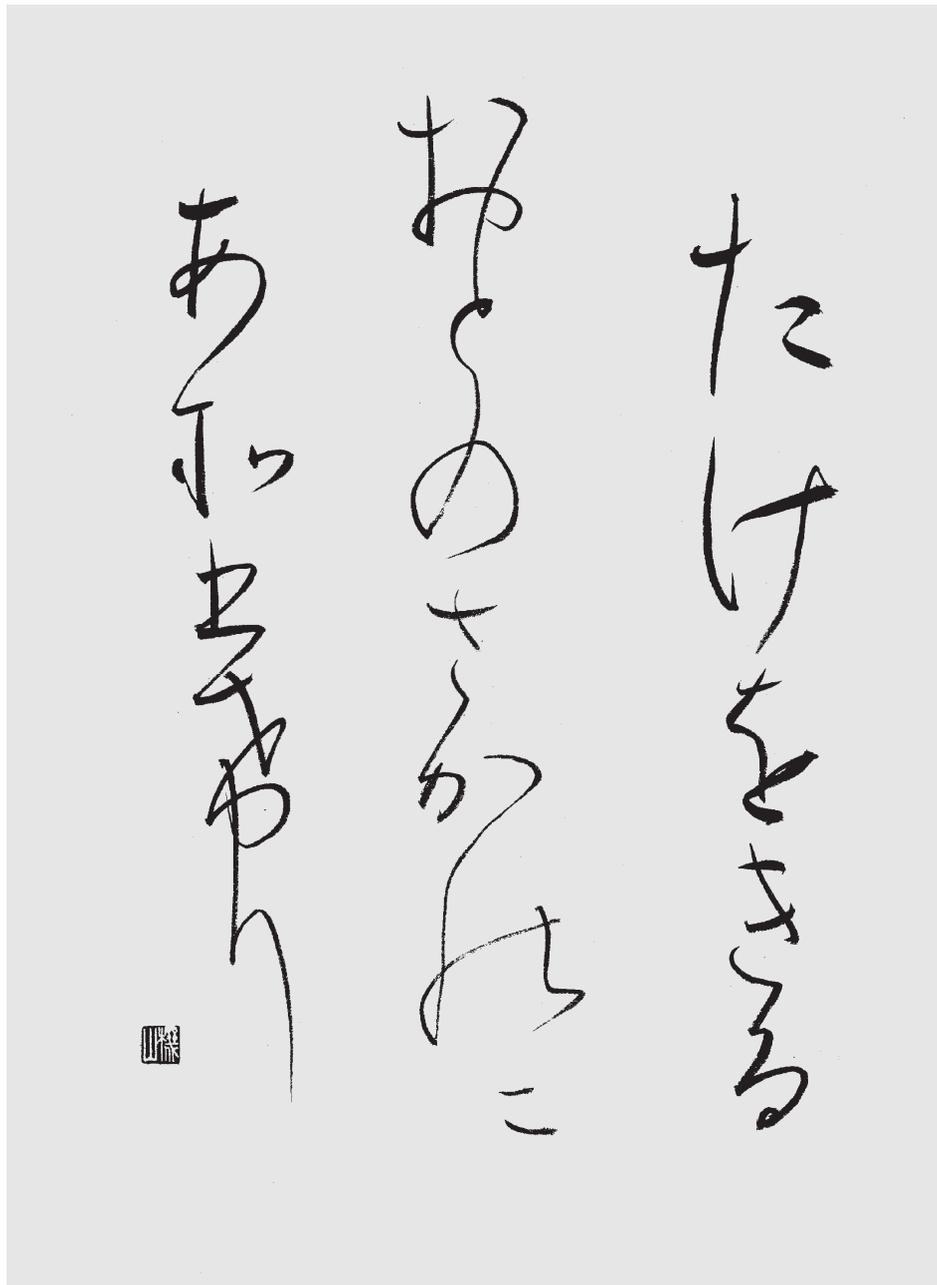
〔出典〕書譜(六八七)

〔筆者〕孫過庭(六四八?~七〇三?)

〔読み〕篆は婉にして通なるを尚び、隸は(精にして)

新入から1級まで

浅井機山先生書



竹を伐る音の嵯峨野に遊びけり
鈴木杏一

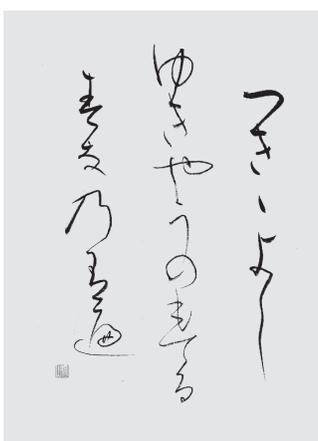
〔句意〕

嵯峨野は竹の多いことで知られている。静かな嵯峨野を散策していると、ふいと竹を伐る音に出会った。いかにも嵯峨野だと感嘆し満足したのである。

〔古筆参考〕

能の 能 能 能 能
所 亦 亦 亦 亦
悲 出 出 出 出
希 亦 亦 亦 亦

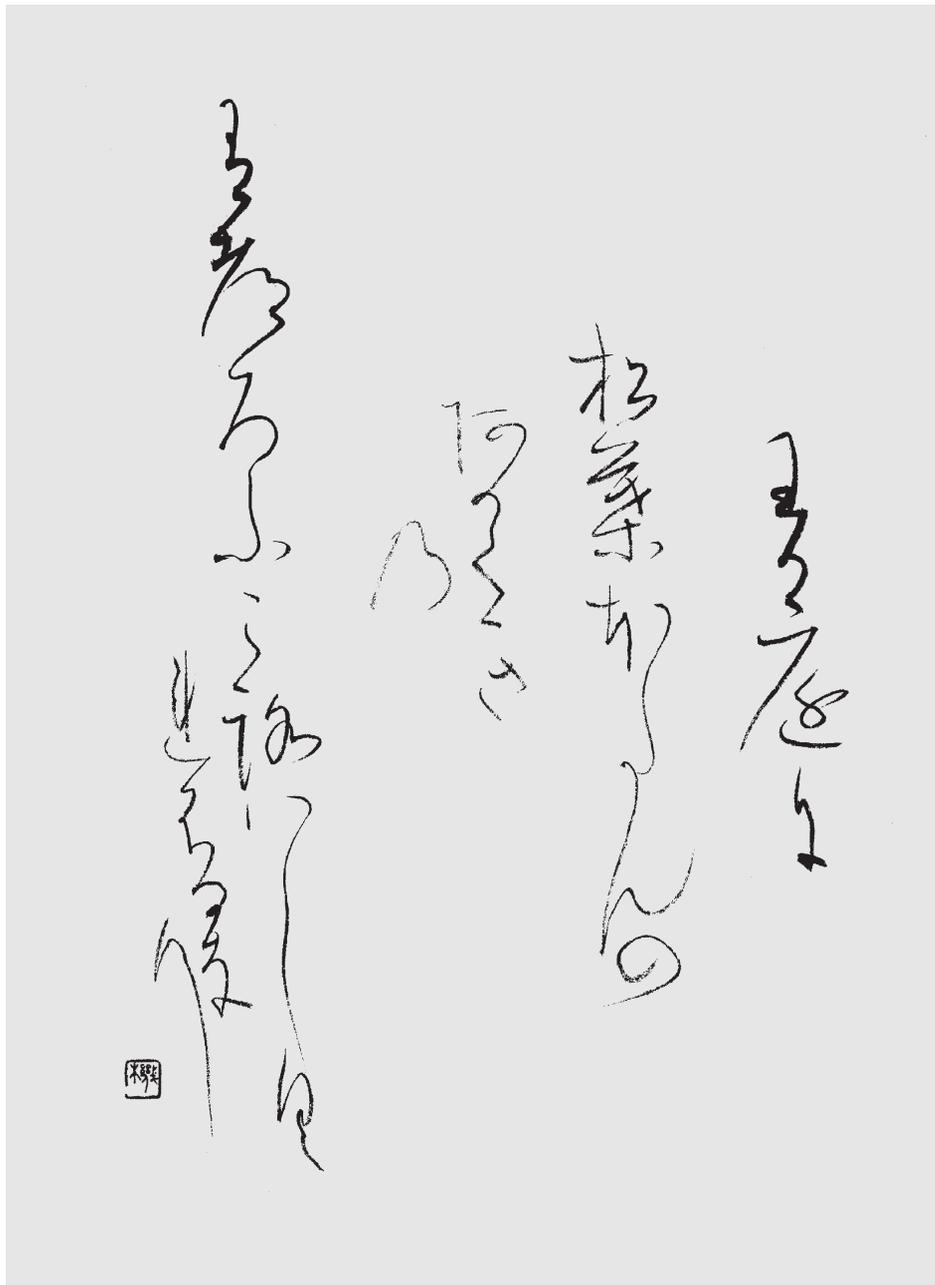
◆10月課題予告



月清し遊行のもてる砂の上

準初段から師範まで

浅井機山先生書



王可
わが庭に松葉牡丹の赤茎の

有都
うつろふころは時雨降るなり

しまきあかひこ
島木赤彦

〔歌意〕

わが家の庭に、松葉牡丹の可憐な赤い茎が
ようやく衰えていくころ、つめたい時雨が
降ることだ。

〔古筆参考〕

尔に

本ほ

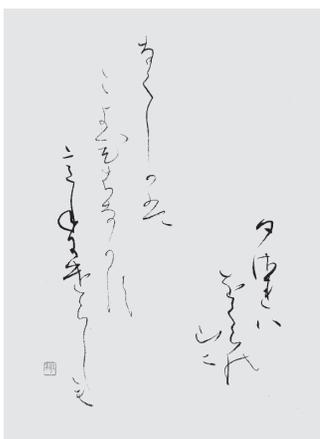
有う

具く

連れ

奈な

◆10月課題予告



ゆふ
夕されば小倉の山に鳴く鹿は

こよひ
今夜は鳴かず新宿にけらしも

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

ぼ	あ
は	か
ひ	と
き	ん

よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書

新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

見	さ	林
つ	い	の
け	り	中
た	す	で
よ	を	小

小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

を	い
中 <small>チュウ</small>	も
火 <small>び</small>	と
で	肉 <small>ニク</small>

新入〜1級

に	肉	里
こ	を	い
み	中	も
ま	火	と
す	で	牛

準初段以上

小二年

準初段以上

え	道 <small>ドウ</small>
で	具 <small>グ</small>
使 <small>つか</small>	は
う	考 <small>かんが</small>

新入〜1級

い	考	道
に	え	具
使	て	は
う	き	次
よ	れ	を

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具 自由 (黒色に限る)〉

切	花
り	だ
種	ん
を	区

新入1級

種	切	花
を	り	だ
ま	植	ん
い	物	を
た	の	区

準初段以上

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

断	赤
絶	信
対	号
	横

解説 (よく見て習いましょう)

に	横	赤
や	断	信
め	は	号
よ	絶	で
う	対	の

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小五年

(全員)

〈用具 自由(黒色に限る)〉

ノクタ		ゆう	戸 屋 屋 屋 屋	や	
一筆並美筆		ぐ(れ)	一ニ开形形	かた	
シ 汎 染 染 染		そ(まる)	カ 舟 船 船 船	ぶね	
リ 川		かわ	口 目 目 目 見	み(る)	

解説(よく見て習いましょう)

に	見	屋
染	た	形
ま	夕	船
る	暮	か
川	れ	ら

小六年

(全員)

に	る	全
声	選	力
援	手	疾
送	た	走
る	ち	す

中二・三年

(行書)

朗	放	お
読	送	昼
し	て	の
ま	詩	校
す	を	内

中一年

(行書)

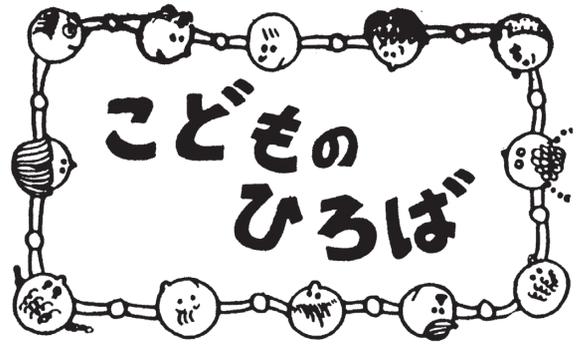
▼小三年以下の課題 まつ い せん ゆう 松 井 千 游 書

	十 <small>じゅう</small>	丸 <small>まる</small>	夜 <small>よ</small>	月 <small>つき</small>	金 <small>きん</small>
	五 <small>ご</small>	く	空 <small>ぞら</small>	見 <small>み</small>	色 <small>いろ</small>
	夜 <small>や</small>	大 <small>おお</small>	に	だ	の
	の	き	う	ん	す
	お	な	か	ご	す
	月 <small>つき</small>		ぶ		き
	様 <small>さま</small>				と

◎お手本はえんぴつ使用



- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
 - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
 - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
 - 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
 - 一、成績は評価により毎月変わります。
 - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



しめきり 9月24日（必着）

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 うき もと こう さ 浮 本 光 紗 書

	花 <small>はな</small>	家 <small>か</small>	大 <small>だい</small>	健 <small>けん</small>	敬 <small>けい</small>
	束 <small>たば</small>	族 <small>ぞく</small>	好 <small>す</small>	康 <small>こう</small>	老 <small>ろう</small>
	を	み	き	長 <small>ちやう</small>	の
	贈 <small>おく</small>	ん	な	寿 <small>じゆ</small>	日 <small>ひ</small>
	っ	な	祖 <small>そ</small>	を	に
	た	な	父 <small>ふ</small>	願 <small>ねが</small>	
		で	母 <small>ぼ</small>	い	
			に		

◎お手本はつけペン使用



小二

中火

小二

か

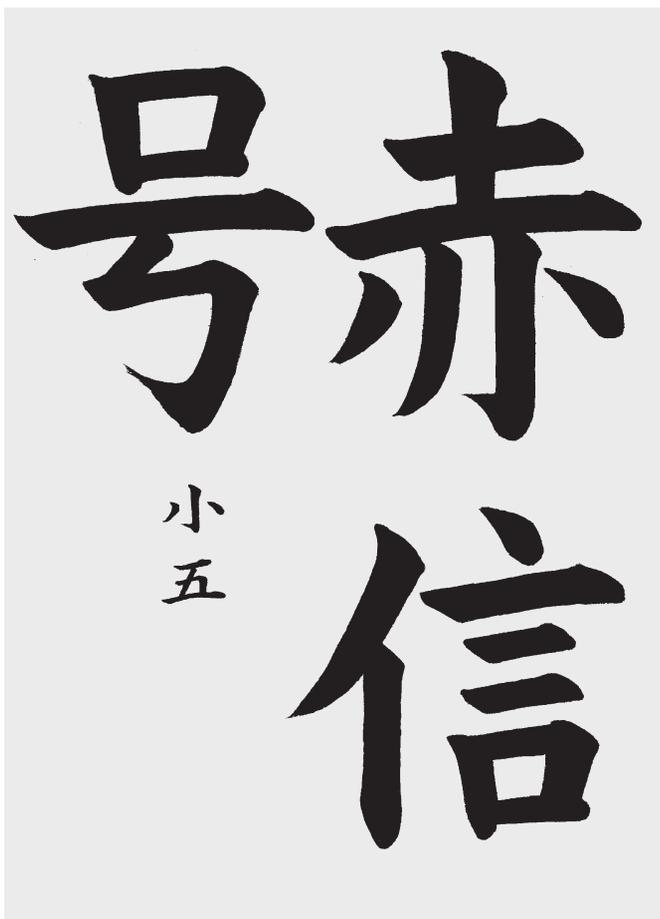
幼年〜小二年
酒井智仔書

中 か

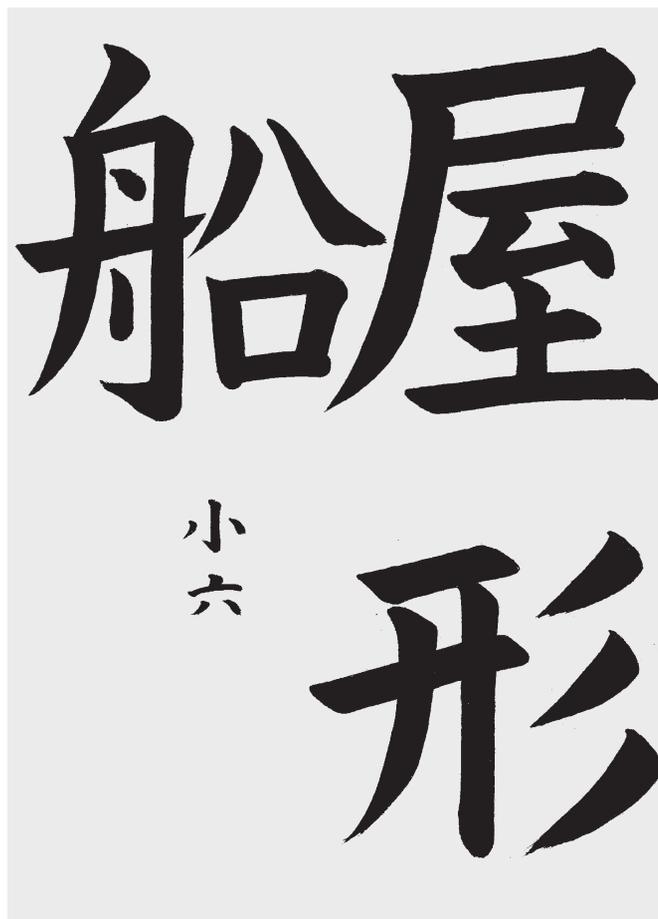
火 す

小一

りす



小三〜小五年
水野碧友書



小六(中)二・三年
永谷恵子書

